

目次

(各回概要付)

第二回 周宣王 風説を信しみだりに人を殺め

杜大夫 幽鬼となり冤罪を追求

概要 周の中興主宣王も晩年になり、周朝滅亡を予兆する不吉なわらべ歌を聞き、女が原因という解釈を信じ、罪なき大夫・平民を殺す。妖女褒姒の出生と乱れの序曲。亡国の予兆。

第三回 褒人 罪をあがない美人を献上 幽王 烽火を上げ諸侯を翻弄

概要 宣王の子幽王は国政を顧みず美女を求め、美女褒姒を得て伯服が生まれ、申王后および太子宜臼を廢して褒姒、伯服を王后、太子に立てる。幽王笑わめ褒姒を笑わせるため緊急時諸侯招集用の烽火を上げ諸侯を翻弄し褒姒の笑いを得る。申侯王后太子廢立を諫言し幽王の怒りをかう。

第四回 犬戎 鎬京を襲がし 周平王 洛陽に遷都す

概要 幽王は申侯の諫言に怒り申討伐を計る。申侯は驚き犬戎と連合し王城を攻め王の交代を謀る。王は烽火を上げ救援を求めるが諸侯は応じず幽王と太子伯服は犬戎に殺され西周滅ぶ。前太子宜臼が平王となり洛陽に遷都。以後東周と呼ばれる。これより王朝の綱紀衰え諸侯台頭。

第五回 秦文公夢を以て郊天の祭を遂行 鄭庄公地を掘て母に会ふ

概要 平王は勅皇の功で秦襄公に周の出世の地である岐豊の地を与え秦は初めて諸侯となる。鄭では庄公が弟共叔段の謀叛を平定し段を教唆した母を追放。類考叔は庄公母子の仲を取持つ。

第六回 周王 虢公を寵信し 周鄭人質を交換

魯宋 君位篡奪の衝を援け 鄭を攻める

概要 鄭庄公は自国の内乱で周卿士の職責を果たせず。平王は寵信する虢公に任せてとし鄭と隙間が生ず。事態打開のため平王は臣下の鄭と人質

第七回 衛石碚 大善によりわが子を誅殺

鄭庄公 王命と偽り宋を討

概要 衛の国老石碚は陳の協力を得て隱公弑逆の州吁を誅し、わが子石厚も弑逆幫助で誅殺。鄭庄公王命と偽り齊・魯と連合し「東門の役」の宋に報復。宋は衛・蔡に鄭の都城を攻撃させる。

第八回 公孫闕 私怨で類考叔を射殺し

公子翬 諂いが容れられず隱公を弑す

概要 鄭庄公直ちに兵を帰し衛・蔡軍を壊滅。更に齊・魯と共に宋討伐に不参加だった許を討伐。この時公孫闕私怨で類考叔を射殺。魯は隱公の子翬が父君弑逆事件を起し桓公を立てる。

第九回 宋華督 新君を立て諸侯に賄賂を贈り、

鄭太子忽 奇を援け戎軍を破るも奇侯の求婚を断る

概要 宋華督、虢公を弑し、鄭「出奔中の馮(庄公)を擁立」奇は北戎に侵攻され、鄭世子忽後の昭公がこれを救援し撃退。奇侯公喜び忽と娘文姜との結婚を望むが忽は資格が合わないと断る。

第十回 齊侯 文姜を魯に嫁がせ 鄭祝聃 周王の肩を射る

概要 齊侯の世子諸兄と文姜は兄妹不倫で問題を起す。齊侯は文姜を鄭の世子忽に再求婚するが再び断られ魯桓公に嫁がせる。周桓王は鄭伯が王命と偽って宋を討伐した事を怒り鄭討伐軍を出す。惨敗し(繻葛の戦い)、周室の衰亡を諸侯に露呈す。

第十一回 楚熊通 王を僭称し、鄭蔡足 脅迫され庶子突を擁立

概要 陳では公子佗が太子を殺し君位篡奪。蔡侯これを誅殺し甥(厲公)を擁立。楚は漢東諸国を臣従させ王を僭称し武王と称す。鄭では庄公の没後

世子忽が立ち昭公となるが、宋公は鄭宰相祭足を脅迫し昭公を追放して、甥の突を擁立。突は帰国に気が逸り宋公に三城割譲他膨大な謝礼を約す。

第十二回 宋公 食欲な謝礼要求で戦いとなり、鄭祭足を殺し主君を追放

概要 宋公は突擁立の謝礼の実行を強引に要求。厲公突が土地譲渡の猶予を求めて物納するが許さず。魯の幹旋も聞かないので魯鄭は宋を攻撃。宋公は南宮長万に迎撃させるが惨敗。鄭厲公突は祭足を煙たぐ、祭足の婿雍糾に謀殺を命ずるが失敗。厲公出奔し昭公忽復国。

第十三回 衛宣公 新宮殿を築き太子の妻を娶り

鄭渠弥弥 君主昭公を弑し子亹を擁立

概要 衛眞公は太子急子の新婦宣姜を横取り夫人とする。宣姜は吾子を太子にしようと急子謀殺を図る。事情を知った宣姜の長子寿が急子の身代りとなり結局二人共死し、宣公後次子朔恵公が継位。急子と寿の輔弼たちは報復の機を窺い朔を追放し黔牟を擁立。鄭では厲公突が櫟邑を根城に復国を窺う。一方復国した昭公は私怨で高渠弥に殺され子亹が擁立される。

第十四回 魯桓公 夫婦で斉行き 鄭子亹 高渠弥 斉侯に誅殺さる

概要 周・斉婚姻の仲介役として魯侯が妻文姜を伴い斉行へ。斉襄公諸兒は妹魯侯夫人と相姦し事の発覚を恐れ魯侯を殺す。魯は庄公が継位。斉襄公を奪挽回のため、鄭昭公弑逆罪を追及し高渠弥と子亹を誅殺。

第十五回 衛侯朔 王軍を破り復国し 斉襄公 巻き狩りで幽鬼に遇う

概要 斉襄公は衛の黔牟を討ち宣姜の子恵公朔の復国を援助。衛は周王に救援を求め諸侯の出動を期待したが、王軍は斉に紛砕され恵公の復国成る。魯庄公は母文姜の勧めで父の仇斉襄公諸兒の娘と婚約。連称と管至父は無忌の斉襄公を弑し公孫無知を擁立する。

第十六回 齊雍大夫 無知を謀殺し 魯庄公 乾時で斉桓公と大戦

概要 管仲、鮑叔牙登場。各々斉襄公の長子糾と次子小白の補佐となる。無知・連称・管至父が斉の国人に殺されたため、糾と小白兄弟の君位爭奪戦となる。糾の臣管仲が小白に向けた矢は帶鉤で止まる。九死に一生を得た小白は糾を討ち斉桓公となる(乾時の戦い)。

第十七回 鮑叔 權囚の管仲を桓公に推薦し

曹劇 長勺の戦いで斉軍を破る

概要 鮑叔牙の熱心な推薦に桓公は遂に赦し難い仇人管仲を赦す。管仲は国家経営策を進言し桓公と意気投合。魯は乾時の戦いの報復のため斉に出兵。斉桓公は管仲の時機尚早との諫言を聞かず鮑叔牙に迎撃を命じ魯將曹劇に完敗(長勺の戦い)。

第十八回 宋公 賄賂を出し弑逆の長万を誅し、

楚王 酌をさせ息嬀を取る

概要 斉は宋と連合し魯に再出兵するも再敗(乗丘の役)。宋の敗將南宮長万は宋公に囚人と愚弄され逆上し弑逆。公子御説は長万を誅伐し宋桓公となる。楚文王は息侯から美人の夫人息嬀を奪い取り、息侯は憤死。

第十九回 魯曹沫 剣を手に斉桓公を脅迫し、

斉桓公 篝火を焚き軍威を大夫に任ず

概要 斉桓公北杏で会盟、桓公会盟欠席の魯を問責。斉魯講和の席上、魯將曹沫は突然剣で桓公を脅迫し侵略地返還を迫る。桓公は脅迫ではあったがこれを承諾す。更に桓公は北杏会盟途中退場の宋征討軍を出す。征逐を得た賢人寧戚が宋公を説得し戦火を未然に防止。

第十九回 鄭厲公突傳報を捉え復国し 周恵王 子頹を誅し謀反を平定

概要 斉桓公は楚討伐の事前準備として宋・衛・鄭・魯・陳・許と会盟を行つた。周恵王は子頹の乱が起つた。鄭伯と西虢公が周恵王の復位の義兵を率へて平定し、陳でも内乱が起つた。公子完、敬仲は齊亡命し、齊田氏の祖となる。

第二十回 晋献公ト占を無視し驪姫を立て、楚成王 乱を平定し子文を令尹にする

概要 晋献公は驪戎を討ち驪姫を得て夫人とし、驪姫は自分が子を君主として謀る。楚の熊惲は兄を殺し成王となる。令尹の子元が王位篡奪を謀るが子文が誅殺して令尹となり楚は安定。斉桓公は南の楚討伐の前に北に備へ、燕の救援要請に応じて山戎討伐にでる。

第二十一回 管夷吾(管仲) 博開強記 魯を語り 斉桓公 孤竹を平定

概要 斉桓公は大蕃北伐を敢行し山戎、孤竹を滅ぼす。桓公は戦利の五百里の土地を全て燕に与へ、燕はこれより北方の大国となる。

第二十二回 公子季友 二代の魯君を擁立し 齊皇子 委蛇を言い当てる

概要 魯は庄公没後、慶父が君位篡奪を謀る。斉桓公は僖公を立て慶父を自殺させ内乱を収束。同じ頃、衛・邢が北狄に侵犯され、齊に救援を求めて来たが北狄直後、救援が遅れる。

第二十三回 衛懿公 鶴を好み国を滅ぼし 斉桓公 楚を討つ

概要 衛懿公は鶴を好み国政を顧みず北狄に攻め殺される。北狄は更に邢を侵略。斉桓公救援の遅れをつけない、両国の復国を援助。楚成王は中原を目指し鄭を攻撃。齊は救援のため七国の軍を糾合し楚を討伐。管仲は決戦より講和策をとつた。

第二十四回 齊桓公 召陵の会盟で楚大夫を款待し

葵丘の会盟で大義により周天子を推戴す

概要 斉桓公は楚成王の講和を認める盟約を締結。召陵の会盟。周恵王の太子変重の意向を知り、斉桓公は大義に基き七国を集め太子擁護の盟を結び結局太子が尊主となった。

第二十五回 荀息の智謀 道を借りて虢国を滅ぼし、百里奚 牛飼まで落魄し遂には秦相となる

概要 晋献公は同姓の虞虢兩國を賄賂と離間策で滅ぼし併合。驪姫は献公を唆かし太子申生抹殺を謀るが失敗。百里奚は仕官を求め諸国を周遊。牛飼に落魄するが遂には秦穆公に認められ秦の宰相になる。

第二十六回 百里奚『かんぬきの歌』で妻に再会し、穆公 陳宝を手に入れ夢の証とする

概要 百里奚は蹇叔を推薦し、妻の子の孟明にも再会。穆公は孟明、蹇叔の子白乙、公子繁、推卒の西乞術に兵権を与え三帥と称す。穆公は夢で天帝から晋の内乱平定任務を与えられる。

第二十七回 驪姫巧妙に申生を謀殺し 献公臨終に荀息に奚齐を託す

概要 晋は驪姫が執拗かつ巧妙な策謀で献公に太子申生を殺させる。驪姫は重耳、夷吾にも毒手を向け、重耳は危機一髪晋国脱出し、趙衰等重臣が彼に追隨した。夷吾も呂貽甥、卻芮が従ひ、梁に出走。献公は荀息を奚齐の太傅とし幼君を託して没す。

第二十八回 里克 二人の孤王を殺し 秦穆公 晋の乱を平定す

概要 里克は幼君奚齐、卓子殺し重耳を迎えようとしたが、重耳は情況を見て固辞。仕方なく夷吾を迎えた。夷吾は喜び、秦に復国協力を頼み黄河以西の五城の譲渡を約した。

第二十九回 晋恵公群臣を大誅殺し 管仲病床で後任宰相の是非を論ず

概要 恵公は秦の五城割譲の約束を破棄し、里克以下重耳派の九名の大夫を誅殺。周では叔帶が謀反を起したが秦、晋の救援で平定。その年管仲は病に臥し桓公に雍巫、豎刁、開方の三佞を遠ざけるよう進言。

第三十回 秦魯 龍門山で大戦 穆姫 死を睹して晋侯の太叔を要求

概要 晋は大飢饉に見舞われ恵公は厚顔にも秦に援助を求めた。穆公は大義により応じたが、翌年秦の飢饉には恵公は援助を断る。穆公は怒り晋に出兵し恵公を囚え、五城の割譲、世子入質を条件に講和を赦した(韓原の戦)。

第三十一回 晋恵公怒りて慶鄭を誅殺 介子推太腿の肉を切り君に献ず

概要 恵公は重耳を恐れ霍(討伐兵を送り、重耳は晋に逃避。この時頭須に資金を持逃げされ苦しい旅が続く、介子推が自分の腿肉をスープにし重耳に出す場面もあった。)/斉桓公は管仲の遺言を聞かず二佞を近づける。

第三十二回 晏蛾兒 罽を越え節に殉じ 桓公の公子たち 朝堂を騒がす

概要 桓公は管仲の心配通り、死の床に臥すと雍巫(賢)に幽閉され、惨めな霸王の最期となった。桓公の没後無嗣が立ち、商人、元、潘の三公子も君位を争う。宋襄公は桓公の付託を重視し太子昭を擁立し斉に迫った。

第三十三回 宋公 斉に出兵し公子昭を擁立、楚 伏兵を置き盟主を強奪す

概要 太子昭は宋襄公の力を借り考公となる。宋襄公は楚の虎の威を借りて盟主になろうと考え、逆に楚王に孟の会盟を乗取られ捕らえられる。

第三十四回 宋襄の仁 泓水の戦いに大敗

斉姜 夫重耳を酔わせて送り出す

概要 宋自夷は策略で襄公を奪回、宋公は楚を恨み楚軍と泓水で戦う。宋公は(非仁)にこだわり戦略を無視して大敗す。一方重耳の随臣達は桓公が没すると他国を頼むべく、重耳を強引に連れ出し宋に向かった。

第三十五回 重耳 列国を周遊 秦懷嬴 重耳と再婚す

概要 重耳は途中曹に立ち寄り、共公の無礼を受ける。宋襄公は款待するが泓水の敗戦で重耳の復国に協力する国力は無く、一行は楚に向かい楚成王の礼遇を受ける。秦の人質だった晋の太子圉は無断で帰国し、後に懷公になる。秦穆公は怒り、楚から重耳を取り取り擁立を図る。

第三十六回 晋の呂卻 夜公宮を焼き 秦穆公 再び晋の内乱を平定す

概要 重耳は秦穆公の擁護を受け晋に帰国し文公となる。呂卻(卻)は一時は文公に服したが、再び公宮を焼き文公暗殺を謀る。文公は仇敵勃鞞の首を赦し呂卻の謀略を知り、再び秦君の援助を得て君位を安定させる。

第三十七回 介子推 志操を守り綿山に焼死

太叔帶 太后の寵愛を待み宮中に入る

概要 文公は更に公金持ち逃げ(却頭須)を赦し呂卻の殘虐の不信を解消、志操堅き介子推は密に退官し綿山に隱棲。文公は彼を惜しみ火を放ち下山を促したが、子推は焼死を選んだ。周襄王は命により鄭を討た霍君を嘉し霍君の娘叔隗を王后にしたが、彼女が襄王の弟太叔帶と私通。

第三十八回 周襄王 乱を避け鄭行き 晋文公信義を守り原邑を降す

概要 叔帶は霍の援助を得て謀反を起し王城を攻め自ら王を称し叔隗を王后とした。襄王は秦、晋の両国に救援使者を派遣、文公は秦侯の遠征の労苦解除を理由に秦軍を撤兵させ、単独で叔帶軍を大破し襄王を復国させ勤皇の功を立てた。襄王は文公に畿内の温、原等邑を増封した。

第三十九回 柳下惠 展喜に策を授け斉軍を撤兵させ

晋文公 衛曹を討つ

概要 斉考公は無恥に加担した魯報復軍を出したが柳下惠の智謀で撤兵。楚は魯の要請で斉に出兵し斉の陽谷を落し、更に仇敵宋を攻めた。晋は親楚の衛曹を攻めて楚の宋包圍を解き引続き楚の討伐を計る。楚討伐は秦、斉との和親が必須で先ず斉と講和を結ぶ。

第四十回 先軫 諫計をもって子玉を怒らせ 楚晋城濮で大戦

概要 晋文公は命令に違背し僇負驍を殺した宿将魏犢・顓頊を各免職、斬首とする。宋討伐に出陣した楚成王は、文公の用兵の速さに驚き撤兵を指令。成得臣子玉は晋の策略に乗じ、楚王の楚子辛(違背)晋に宣戦布告、文公は亡命の楚王との約束を守り三舎退却し城濮で子玉軍を壊滅。

第四十一回 楚子玉 連谷城で自殺 晋侯 踐土で会盟し盟主となる

概要 楚王は命令違反の敗戦に激怒し子玉に自殺を命じた。晋軍凱旋の途中周襄王がわざわざ現えると聞き文公は急遽踐土に行宮を造営し諸侯を集め、襄王は文公を方伯に封じた。衛成公は晋文公の怒りを知り仕方なく弟叔武に国を任せ出国。

第四十二回 周襄王 河陽で朝見を受け 衛元咺 公館で訴訟を行う

概要 文公は衛臣顓頊、祁瞒、舟之僑を斬り命令違反必罰の方針を貫く。衛成公は讒言を信じ、成公の復讐に努力した弟叔武を讒奪者と疑う。文公は天子への答礼の朝見を兼ね河陽で会盟を行い、朝見後、叔武冤罪事件の衛成公の裁判を開く。

第四十三回 寧俞 酈毒を逆用し衛侯の復讐を図り

燭武 城を降りて密に秦に撤兵を説く

概要 文公が曹衛両君を赦さないで鄭伯も恐れて楚につく。文公から河陽の会盟出席の問責を受けた許は、城濮敗戦直後の楚の救援が得られず投降。更に文公は寝返った鄭を晋秦共闘盟約に基づき連兵で攻撃。だが鄭燭武の離間策により秦は鄭に杞子等を残し密かに撤兵。

第四十四回 叔詹 秦釜に拠つて晋侯に抗し、弦高 偽の君命で秦軍をねぎらい鄭を救う

概要 秦撤退後も晋は鄭攻撃を継続。鄭は講和を許され親晋となる。楚王も脅威に感じ晋と講和を締結。文公六十八歳で没す。秦穆公は鄭に残した杞子の提案に乗り鄭討伐のため子明視を派兵。鄭の牛商人弦高の機転で孟明視は鄭に迎撃準備ありと判断し代りに晋の属国滑に兵を向け攻め落す。

第四十五回 晋襄公 喪章をつけて秦を破り、

先元帥 甲冑を脱ぎ糧量に突入し自殺す

概要 晋元帥先軫は、滑を滅ぼした秦遠征軍が帰途崤山の險路を通る事を予測し、不意を襲い全滅させ三元帥を捕縛。晋襄公は不用意にこれを釈放したため先軫は激怒し襄公に唾棄する。先軫はその後突然攻めて来た聶君を討ち果たした後、君主の非礼を詫い敵陣に斬込み自殺。

第四十六回 楚商臣 宮中で父王を弑し、秦穆公 嶠谷で遺骨を葬る

概要 楚成王は世子の廢立を謀ったが、世子商臣は機先を制し父王を自殺させ穆王となる。秦穆公は崤の復讐戦彭衙の戦いにも敗れ死を覚悟したが穆公に赦され、満を持し背水の出陣。晋は秦軍の勢いを恐れ守りに徹し秦は崤山の英霊を祭つて凱旋し、その勢いで戎族を併合し西戎の覇者となる。

第四十七回 弄玉 簫を吹き鳳凰に乗り

趙盾 秦に違背し靈公を立てる

概要 笙を好む秦穆公の愛娘弄玉と簫を奏くする太皐山の蕭史との愛情物語。晋は襄公没後、太子が幼少の為、趙盾は任秦公子雍奉迎の使者を出す。国内の太子同情派を抑え得ず、秦に違背し幼太子を立て、雍奉送中の秦軍を討つ。使者の士会らは怒つて秦に亡命。(令狐の背信)

第四十八回 晋五将 先克を刺して国を乱し

秦余秦を敗き士会を迎える

概要 趙盾は士穀らの乱を制し五人の大夫を処刑。楚は王商臣が晋の内乱の際に鄭、陳を攻め鄭陳木と厥貉で会盟を行う。秦は康公が令狐の背信の報復に出る河曲の戦。晋は、この戦いに士会のために苦しめられ、趙盾は士会の奪回を謀る。士会の帰国後秦康公は義により士会の家族を還す。

第四十九回 宋公子鮑 私財を投じて民に施し国を買ひ、

齊懿公 竹林池で弑逆に遭う

概要 趙盾は覇業継承のため新城の会盟を行う。齊公子商人は昭公の没後世子を殺し懿公となるが宿恨ある家臣に殺される。宋公子鮑は民心を買ひ

君位篡奪し文公となり、その間罪輩の晋の荀林父は賄賂を受け講和を許す／魯公は東門遂が文公の没後幼主の交代を策す。

第五十回 魯東門遂 公子倭を擁立、趙盾 桃園で靈公を暗殺す

概要 魯東門遂は晋侯の後ろ楯で世子を謀殺し宣公を擁立／楚庄王旅は即位後二年間鳴かず飛ばず／申無畏らの諫言で大悟す／晋では靈公が荒淫暴虐、国事に無関心。強諫する趙盾を疎み屠岸夷と共に謀し抹殺を謀る。

第五十一回 董狐 桃園事件を趙盾の責とし史簡に直筆、

楚庄王 閹椒を誅し絶纒大会を催す

概要 事情を知った趙盾は桃園で靈公を謀殺、趙盾は桃園事件をうやむやにする。史官董狐は史書に「趙盾靈王を弑せ」と記し、盾の抗議を「屈せず／楚庄王は周に侵入し／鼎の軽重を問う。閹椒の謀反に苦戦し養由基の弓で平定。この時の無礼講の宴会が有名な「絶纒会」である。

第五十二回 鄭公子宋 寵賞味みず叛心を起こし、

陳靈公 女の下着を着て朝廷で戯れる

概要 鄭は晉楚帰属で国論が二分。公子鼎生、公子宋が靈公を弑し襄公を立て晋と講和す。楚庄王の弑逆問罪事は一度晋に阻まれたが、鄭は鼎生の死後公子宋を殺し楚と講和／陳でも司馬夏御叔の死後、美人の後夏夏姫のもと、靈公たちが私通し弑逆事件に発展

第五十三回 楚庄王 諫言を聞き陳を復国させ、

晋景公 軍を出動し鄭を救う

概要 陳靈公は夏姫の機嫌をとり息子夏徵舒を司馬にした。徵舒は靈公たちから母との淫らな聞かずもがなを耳にし憎悪が噴出靈公を弑す。楚庄王は弑逆を問罪し誅殺／楚は鄭から撤兵中晋救援軍黄河渡河の情報が入る。庄王は伍参の強引な説得で晋軍との決戦を決意。

第五十四回 荀林父 部下の違背を放任し大敗、

孟孫僖 芝居に託し楚庄王に忠告す

概要 鄭がすでに楚投降した事を知り晋荀林父は撤兵を命じたが、主戦派先穀箕が命令を無視して黄河を渡ったので仕方なく開戦。楚王の講和案も先穀らが破壊、楚は内部割れの晋軍に先制攻撃し一挙に大勢を決め、晋は大敗し遂に覇主の座を楚に譲る(郟の戦い)。

第五十五回 宋華元 楚に潜入し元帥を寢室で脅迫、

老人 草を結びて杜回を倒し旧恩に報ゆ

概要 楚は鄭対策として晋の友好国宋を攻撃、救援承諾の連絡使者晋解揚は楚に捕わが命を捨て晋来援を知らせる。しかし救援の晋軍は来ず、宋華元は落城を前に楚陣に単身潜入、元帥側を脅迫し講和／秦では杜回が晋を攻撃。晋將魏顆は父魏犢の愛妾助命の陰徳により杜回を討つ。

第五十六回 齐国母嬖夫人 楼台から客を愚弄し、

逢丑父 衣を交換し主君の影武者となる

概要 晋は合狐の背信、斉及び宋の弑逆罪不問、更に鄭宋の救援もできず諸侯は離反。晋は修復の為卻克を魯斉に派遣、偶然魯衛曹の大夫も斉同行。四人は斉頃公の母親に身体欠点を嘲笑され怒る。後日頃公は四国連合軍の攻撃を受け完敗し逢丑父身代り策でやつと帰国(鞍の戦い)。

第五十七回 巫臣 夏姫を娶り賈出奔、趙氏下宮の難、程嬰孤児を匿す

概要 晋卻克は臨済を包囲し者臣は講和を求め盟約を結ぶ／楚の屈巫は夏姫を得て晋に出奔し、呉と友好関係を作り呉楚の辺境を忙しくし、楚を苦しめる／趙盾没後、屠岸夷は景公に靈公弑逆事件を讒言し趙氏族滅を謀る(下宮の難)。趙盾の腹心公孫杵臼と程嬰は遺児趙武を匿す。

第五十八回 魏相 秦伯を説得し景公に秦医を迎え、

養叔 神技で王の恨みの魏錡に報復

概要 晋景公は魏相の秦の名医招聘努力も甲斐なく病没し厲公が立つ／宋華元は晋楚の講和を提唱、両国は宋の西門外で不戦条約を締結(西門の盟約)。楚の司馬側は「この盟約に不満で共王を唆して鄭を攻略し晋楚再び戦う。楚共王は左目に矢を受け晋が攻勢に立った。(鄆陵の戦い)」

第五十九回 厲公 晋童を寵愛し晋国大乱となり

悼公 屠岸賈を誅し趙氏を復興

概要 晋軍に魯衛が参軍。楚王は元帥側が泥酔の為令尹鬬辛之と相談し撤退。晋厲公は戦勝で尊大放蕩となり、佞臣晋童の誣告で卻氏を肅清。欒書荀偃は天義で厲公を弑し悼公を擁立。韓厥は趙氏下宮の難を新君悼公に説明、悼公は屠岸賈を誅し趙氏を復興させる。

第六十回 智武子の三分四軍之法で楚軍を疲弊させ

魯三將 偏陽城で力量発揮

概要 交通要衝、戦略的重要地点にある鄭は、常に晋楚両大国の間に攻められその度に両国の顔色を見て向背を繰り返す。晋悼公は楚の戦力を消耗させるため、一方では呉に楚の東国境を騒がせ、他方では「以逸待勞の計」を採用して鄭を攻め、楚軍を疲弊させる策を取る。その前に晋のアキレス腱である楚の宋攻撃未だ防止のため軍用道路になる偏陽城を取る事にする。

第六十一回 晋悼公楚と蕭魚で合戦し、孫林父巧言を聴き衛侯を追放

概要 悼公は鄭に三度出兵し二度目、楚は晋の以逸待勞の計に疲れ救援できず。二度赦され鄭簡公は感激し衷心より晋に臣従／衛では献公が佞臣に囲まれ恣意放縱。孫林父や寧殖は先君の弟の擁立を図り宮廷を攻撃、献公は斉へ出奔。

第六十二回 諸侯連合して斉を攻め 晋臣 相謀って欒盈を追放する

概要 衛孫林父は、殤公を奉戴／齊靈公は覇主を目指し魯へ出兵、晋平公は諸侯連合で斉臨淄を包囲するが連合国鄭に内乱が発生し撤兵(平陰の戦い)。

晋は再度斉へ出兵するが齊靈公が没したので義により撤兵。齊晏嬰も晋の仁に応え澶淵で講和／晋では名門欒盈が范氏の讒言により追放される。

第六十三回 老邾奚 羊舌救出に尽力、范鞅 機転をきかし魏舒を強奪す

概要 賢臣羊舌赤と昝は欒盈の与党である弟叔虎に連座、引退していた邾奚は急遽上京し平公に助命嘆願／欒盈に叛心はなく、斉出奔したが齊庄公は欒盈を利用し平陰の敗戦の報復を考え、欒盈も遂にこれに乗る。辛貳謀死、魏舒の内応が范氏に抑えられ欒盈は出鼻をくじかれる。

第六十四回 欒盈 曲沃城で死し、齐杞梁莒の且干門で死戦す

概要 欒盈は魏舒の裏切りを激怒、欒軍の猛将督戎は力戦したが斐豹の罠に計られ、齊庄公の救援も間に合わず大敗し欒盈は曲沃で最後を戦い殺される。斉侯は途中、これを知り撤兵。帰途莒を攻め、華周、杞梁は勇猛に戦死。杞梁の妻の想いで臨淄城の壁が数尺崩れ落ちたという。

第六十五回 齐侯 弑され崔慶両氏が専横

寧喜 衛献公を復国させ国政を独断

概要 齊庄公は相国崔杼の妻と私通し自ら内乱の因を作り崔杼に殺される。「崔杼君主を弑す」と直書し崔杼の変更命令に服さぬ太史兄弟は殺されるが末弟の強い使命感に崔杼遂に諦める／衛国では寧喜が父寧殖の遺言により、殤公を弑し追放されていた献公を迎えた。

第六十六回 寧喜 殺され子鐸出奔、慶封 崔杼を殺す齐の国政を独断

概要 寧喜は衛献公と朝政一任の約束はあったが主君を極端に無視するため結局誅殺される／宋向戌は華元に飯い、晋楚停戦を提唱し両国はこれを受け誓約を交わす(弔兵の会)／齊では慶封が謀計で崔家を滅ぼし国政を専断／相次ぐ呉楚抗争も、呉王夷昧の時季札が出兵をやめ友好と安民に専心する。

第六十七回 虞薄葵 慶封を追放 楚靈王 諸侯と大会盟を行う

概要 齊では内乱が起り相国慶封は呉へ逃亡し鄭公は子産が善政を敷き、『刑書』を铸造し蔡では嫁を横取された世子が父景公を殺し靈公となる楚でも弑逆で靈王が立ち申し諸侯を集め示威のため呉を攻めたが功無く章華宮を造営し物力で示威。

第六十八回 鹿祁宮の祝賀の席で師曠新曲を聴し

陳氏 私財を散して齊国を買わんとす

概要 楚王は章華宮に諸侯を招待するが客は魯侯だけ一人晋平公は楚をまね民の膏血を絞り鹿祁宮を造営したが諸侯招待の宴の夜突然權病、楽しむ間なく逝く。齊では四家が高・欒と陳・鮑の二派に別れ内戦、陳鮑派が勝利し陳無為は私財を施し公子達や民心の取込みを謀る。

第六十九回 楚靈王 擁護を装ひ陳蔡を滅ぼし

晏平仲 言葉巧みに楚の君臣を服せしむ

概要 楚靈王は陳を併合し蔡に出兵、蔡は朝呉を楚軍討伐に派遣、朝呉は王弟棄疾に自立を唆すが王を憚り朝呉を追返し楚は蔡も併合、朝呉は蔡の復国を期し棄疾に仕える、齊は晏嬰を楚に表敬させ、楚靈王は彼に恥をかかてうと謀るが悉く言負かされる。

第七十回 楚平王 三兄を殺して即位 晋昭公 嗣主を目指し齊魯を脅す

概要 楚靈王は更に徐に遠征、朝呉は棄疾に王遠征の際に自立すべきと進言、棄疾は次兄を新王に立て新王の命で靈王軍を自壊させ靈王は結局自縊す。棄疾は兄王を自殺させ自立し平王となり、陳蔡は復国し晋昭公は覇業奪回を図り平丘の会盟を行う。

第七十一回 晏平仲 二桃で三勇士を謀殺

楚平王 世子を追放しその嫁を娶る

概要 齊景公は自称「齊国」二傑の傲慢を憂慮、来訪の魯侯に出した珍果金桃の残り二桃で功を争わせ三人を自殺に追込み、心配する景公に田穰且を

推薦、穰且は晋燕軍に大勝し大司馬となる(司馬穰且)楚王の寵臣費無極は太子謀反と讒言し太子建は宋に出奔、補佐役の伍奢父子も同罪とす。

第七十二回 伍奢 身を捨て父伍奢の難に駆けつけ

伍子胥 身をやつして昭閔を越える

概要 楚王の誘の手紙で兄伍尚は入朝し父と共に刑死、伍子胥は出奔、親友申包胥と互いに「楚を必ず滅ぼす」必ず再興させる」と誓い合つて別れ、太子建を伴い宋から鄭、建は晋の奸計に乗り鄭を裏切り殺され、子胥は太子の子勝を連れ呉へ、各所で義人に助けられ敵戒の昭閔を抜け長江を渡る。

第七十三回 伍員 簫を吹いて呉市で物乞いをし

專諸 焚鼠を献上し王僚を刺す

概要 伍員(伍子胥)は危険をしのぎやつと呉都に到着、物乞をしつつ公子姬光の暮しに入る機会を得る、途中で知らな専諸を推薦し、公子の謀士として王僚を倒す謀計を献策し公子光の呉王闔閭登位を援ける。この頃楚平王は病死する、伍員は仇敵の仇討前の死を悲しんだ。

第七十四回 養凡 誹謗を恐れ無極を誅殺 要離 名身を食り慶忌を刺す

概要 費無極は賢臣伯卻死を謀殺、子伯嚭は呉に亡命、楚令尹の養凡は費無極を患の元凶として誅殺し闔閭は伍員に城の建築と防衛体制の整備を命じ刀匠干将に名刀干将、莫耶劍を作らせ、要離の苦肉の策に従い危険人物王僚の子慶忌を除いた。

第七十五回 孫武 演習、呉王の寵姫を斬 蔡昭公 質を出し呉師を乞ふ

概要 伍子胥は呉王闔閭に孫武を推薦、孫武は兵法士二篇を献上し、女性でも兵士として使用可能と王前で演習し命令違反の王の寵姫を軍法に照らし斬る。一方楚の属国唐蔡陳許等の楚離れの情報を得て呉王は遂に伍子胥の宿願楚討伐の大軍を起した。

第七十六回 楚昭王 郢都を捨て西に奔り、伍子胥 墓を掘り屍に鞭打つ

概要 攻撃にでた楚囊瓦は沈尹戌の策を聞かず呉軍に壊滅され敵前逃亡。楚王は遂に都城の郢を捨て随を頼った。孫武は昭王に代え太子建の子勝を王位につけるのが名実両全と説得したが、闔閭は聞かず楚の徹底滅亡を望んだ。子胥は平王の死体に復讐の銅鞭を打つ。

第七十七回 申包胥 秦庭に泣いて借兵を乞い、呉軍 撤退し楚昭王復国

概要 申包胥は楚再興を図り姻戚関係の望みを託して秦公に哀訴し借兵に成功。楚秦連合軍は呉の先鋒を打破り戦局は膠着。突然闔閭の弟夫概が帰国し謀反を起す。孫武は土地を割譲さず勝の楚復帰を条件に講和。闔閭は兵を返し夫概は宋敗走。楚は都に還都。

第七十八回 孔子 夾谷の会盟で斉の野望を退け、

閔人 三都の城壁問題で誅殺さる

概要 魯政は三天夫に移り美掩冉更にその家臣が握り下克上の様相。陪臣陽虎は魯政独占を謀り敗れて出奔。斉魯は夾谷で会盟。孔子は魯公に同伴し、辯・武両面の対応で斉から難を逃れる。孔子は内乱防止に大夫の邑城の縮小を提案し、抵抗する少正卯を誅殺。

第七十九回 齊黎弥 魯公に駭姫を送り孔子を追出し、

文種 呉の太宰伯嚭を買収

概要 斉は魯君と孔子の離間を謀り孔子は遂に魯を出国。呉闔閭は越に出兵。句踐の敵前での死刑囚自刎の奇策に混乱し大敗戦死。三年の服喪後呉王夫差は満を持し越を攻撃し、句踐軍は大敗。文種は伯嚭に取入り句踐の助命を求む。晋では内紛が起き范中行氏が滅び智伯規韓の四卿となる。

第八十回 夫差 伍子胥の諫言を聞かず越王を救し、

句踐 懸命に呉に仕える

概要 越を赦すなどという子胥の強諫を聞かず夫差は句踐を赦す。句踐は范蠡と共に従順に夫差に仕え、夫差が風邪で寝込んだ時大便をなめて回復を予言する等苦肉の策で信頼を得。夫差は結局句踐の帰国を許す。句踐は面従腹背、臥薪嘗胆して報復の時期を待った。

第八十一回 呉王 美人の計に陥り西施を寵愛、能弁の子貢 列国を説く

概要 句踐は呉王に美女西施を献上する等、呉弱体化策を着々と進める。一方は魯呉連合軍に攻められ謝た恨みがあり魯に報復軍を出す。孔子は母国の為と魯政め中止の説得に子貢を斉派遣。子貢は斉相陳恒に寧ろ呉を攻めるべきと説き、更に呉王夫差は越より斉討伐が覇王の近道と扇動。

第八十二回 夫差 子胥を殺し晋と覇王を争い、

麇賁 衛に帰国し子路 縊を結んで死す

概要 子胥は夫差の命で斉に逃戦状を届け、呉の将来を悲観し息子を斉鮑息に預ける。呉月の艾陵の戦いは呉が完勝。夫差は疎ましい子胥に自殺を命じ、晋と盟王を競うため遠征。越王句踐はその隙に呉を攻撃し、撤兵して来た夫差は大敗。斉は陳氏が専横し、衛では君主父子の内乱発生。

第八十三回 葉公 平勝を誅し楚を固め、越王 夫差を滅ぼし覇を称える

概要 呉楚講和で楚に戻った勝は、父の仇の鄭討伐に非協力的な子西・子期を殺し謀反を起したが沈諸梁（葉公）に平定される。呉は越に再び大敗し夫差は自刎し呉越戦争は終る。范蠡は句踐の人物を見限り越を去る。晋では四卿の一人智伯が大権を握る。

第八十四回 智伯 晋陽を水攻めにし、豫讓 衣を刺し趙襄子に報復

概要 智伯は魏趙韓を滅ぼし晋を乗取ろうと謀り、「越と覇権争いの為の軍事強化」の名目で三家に土地を要求。趙襄子は断り智魏韓の攻撃を受ける。

が、落城寸前に逆に趙魏韓連合に成功し智氏を滅ぼす。智伯の臣豫讓は刺客となり『士己を知る者のために死す』と趙襄子に二度報復を試みる。

第八十五回 秦羊 中山の贈り物わが子の妻を啜り、

西門豹 河伯嫁取り事件の巫女を誅す

概要 趙魏韓は周王に諸侯を認めさせる／周王は二弟を王城と鞏に封じ東西一周となる／魏文侯は適材適所を進め、秦羊に中山討伐、西門豹を民生安定のため鄴都の令、対秦防衛西河の固めに呉起をそれぞれ起用。

第八十六回 呉起 将にならんと妻を殺し、驢忌 琴を弾でて相国となる

概要 魯呉起は斉に大勝するが斉離間策で魏に出奔、魏で秦の河西五城奪取の大功も文侯没後武公に罷免され楚に、楚では元官を削る財政改革も悼王の没後恨が爆発し殺される／斉田和が諸侯を認められ姜氏斉滅ぶ／趙相国使累が刺客聶政に討たれる／斉では琴の名手賢才驢忌を登用。

第八十七回 衛鞅 秦君を説き新法を制定、孫臏 鬼谷塾を辞して下山す

概要 衛鞅は魏では用いられず、秦孝公に認められて法制改革を行い天下無双の強国にし、楚の商於を奪取この時期、隱者鬼谷先生の下に孫臏・龐涓・張儀・蘇秦が輩出し各々戦国の世で名を成す。先ず龐涓が魏の元帥になり魏王の招牌で孫臏も下山。

第八十八回 孫臏 狂人を装い禍を脱し、龐涓 桂陵で敗走

概要 魏龐涓は孫臏の才能を怖れ惠王に讒言し足切りの刑にす。孫臏は狂人を装い身を守り、斉威王は孫臏の難を知り密に斉に連れ帰る。魏が趙を攻め、斉王は田忌・孫臏に趙救援を命じた。臏は趙都邯鄲の直接救援はなく魏の都を攻め、急いで兵を返す龐涓を迎撃し大勝す（桂陵の戦）。

第八十九回 龐涓 馬陵道で万箭を受け、

商鞅 咸陽市中で五牛分屍の刑

概要 桂陵の戦いの十一年後、魏は韓を攻め再び田忌・孫臏が救援、臏は滅灶の計を用い、馬陵の隘路で魏軍を撃破し將龐涓は戦死（馬陵の戦）／斉宣王は

空論に耽る稷下の学士を優遇し酒色に耽り勝利に胡坐をかいたが、鐘離春の諫言に大悟し国は治まる。／秦の商鞅は秦国強化に大功があつたが孝公の没後、太子時代商鞅の法に触れ処罰された怨恨ある惠文公に誅される。

第九十回 蘇秦 巨徒を説き六国の宰相となり、

張儀 罪罪で鞭打たれ秦行く

概要 蘇秦は第一希望の秦に断られ、逆に六国連合兵を秦を討つ合縱策で燕趙の説得に成功。この時秦の趙攻撃を知り合縱崩壊を怖れ友人張儀を秦に売込み趙討伐を中止させる。その後趙王の名で他の四国を歴訪し合縱の承諾を取付け、六国は洹水で合盟し蘇秦は縦約長になる。

第九十一回 燕王 禪讓をまね斉軍を呼び込み、

張儀 偽りの土地を獻じ楚王を欺ぐ

概要 魏燕が秦と講和し、斉が燕を襲う等次第に合縱にひびが入り、趙王の信を失い蘇秦は斉に出奔。斉王に重用されたが不満分子に暗殺される／斉縉王は燕の内乱に乗じて燕の大半を攻め取り燕王噲死す。昭王は報復のため賢人を求める魏より始めよ／秦の張儀は楚懷王を欺し斉楚離間を謀る。

第九十二回 秦武王 鼎挙げを競い腰を絶ち、

楚懷王 不用意に武關に赴き秦の罠に陥る

概要 秦楚は姻戚となる。張儀連衡の遊説に列国を回る。斉湣王は張儀の虚偽を知り激怒し列国に合縱を説く。張儀は惠文王没後、武王に嫌われ魏に逃避し翌年病没／秦甘茂は韓を討つて三川を貫き、武王は洛陽へ入るが事故死／秦昭襄王は楚を攻め、楚懷王を欺して誘出し拘禁、懷王は結局客死。

第九十三回 趙主父 沙丘宮で饒死、

孟嘗君 鶏の空篋で函谷関を脱出す

概要 趙武靈王は胡服騎射で軍事力を強化し、讓位し主父と号し軍事に専念。前太子章が新王（惠王）に謀反、李兌は章を殺し主父をも幽閉し弑す。

／楚(くわい)は屈原が懷王の雪辱を主張したが、讒言で追放され汨羅に投身／斉王(しやう)は秦王に招かれて捕われたが、鶏鳴狗盗の危機を脱す。

第九十四回 馮驩(ふうこん) 劍を弾いて孟嘗(もうしょう)の客となり、

齊王 楚・魏と連合し桀宋を討

概要 秦の離間策のデマにより、孟嘗君は斉相を罷免される。食客孟嘗君去り一人残った馮驩が孟嘗君の相国復職を謀る。斉湣王は楚魏連合で桀宋を滅ぼすも、撤兵する友軍の楚魏を迫撃したため皆吾を離れ秦に付いた。湣王の驕慢を諷言した孟嘗君は再び罷免され魏に出奔。

第九十五回 樂毅(がくぎ) 四国を説き連合して斉を滅ぼし、

田單 火牛の計で燕を破る

概要 燕昭王は斉との報復戦を決意し、樂毅を大将とし趙魏韓秦連合で斉に攻入り臨淄を落し七十余城を取る。斉湣王は楚の救援大将に殺される。斉の最後の砦即墨、莒州が落ちず、昭王が没すると恵王は樂毅を更迭する。代った騎劫は田單の策略に大敗し七十余城を奪回される。

第九十六回 藺相如(りんそうご) 二度秦王を屈せしめ、

趙馬服君 秦軍を撃退し韓を救う

概要 趙は秦王から和氏の璧と十五城交換提案を受け藺相如が交渉使者となる。相如は秦王の詐取を感知し和氏の璧の譲渡を拒否。秦王は秦趙関係を懸念し諦め、修好の会を提案。趙王は楚懷王の二の舞を懸念したが、相如の弁と孟嘗君の軍備で難を脱す。廉頗と相如は刎頸の交りを経て、／秦は韓を攻め趙王は趙奢馬服君に救援を命じ閼手の戦いで秦に完勝。

第九十七回 范雎(はんきう) 死地を脱し秦に逃避、

張祿と改名秦廷臣となり魏使に報復

概要 魏の范雎は斉の使者として帰国した時、同行の須賈(きよか)に機密漏洩と讒言され相国魏斉に殺される。九死に一生を得て秦に出奔。秦昭襄王の信任

を得て、丞相となり「遠交近攻策」を進言し魏攻撃を決定。魏王の講和要請に范雎は報復の好機とし魏斉の首を講和条件とした。

第九十八回 秦王 平原君を質に魏斉を要求し、

白起 長平で趙を破り趙兵を生き埋め

概要 魏斉は趙逃亡。秦王は平原君を招聘拘束。魏斉の首を強要し結局魏斉の自殺により講和／秦は人質の楚太子を赦し、楚と遠交に成功し、近攻に着手して韓を攻撃。韓馮亭は上竟を趙に譲り、結果秦趙の戦いになり白起は趙括軍を長平で撃破し捕虜四十万人を生埋めにす。

第九十九回 武安君 冤罪を受け杜郵に死し、

呂不韋 巧計を以てて質異人の帰国を謀る

概要 范雎は白起の軍功を懸念し、秦王に韓趙と講和を進言。白起は邯鄲が陥落寸前だった故激怒し秦王の命令も聞かなくなり、王は終に白起を誅殺し再び趙攻撃を開始。趙は魏楚に救援を求めるが両国は秦を恐れ躊躇／商人の呂不韋は趙へ秦の人質異人を見出し「奇貨居べし」と救出に画策。

第百回 魯仲連 秦の帝位を認めず、 信陵君 兵符を盗み趙を救う

概要 魏王は趙の救援依頼に対し、秦を恐れ秦王に皇帝を勧めて懐柔すべきだとしたが魯仲連は秦が帝を名乗る問題点を挙げ諫止。魏信陵君は趙平原君の要請に応え義により、救援に反対の魏王の兵符を盗み出し八万の精鋭を動かして秦軍を快撃し快勝した。

第百一回 秦王 周を滅ぼし九鼎を移し 廉頗 燕を破り二将を殺す

概要 周赧王は楚の提案に乗り秦討伐を謀るが失敗。秦は怒り西周を攻め滅ぼす／秦范雎は蔡沢の説得に従い秦王に蔡沢を推薦し自らは隠退する／秦安国君は即位直後に急死。昭襄王(異人)が継位し政後の始皇帝が太子となる。秦は東周を滅ぼし遂に周王朝は八百有余年の事を閉じた。

第百一回 信陵君 華陰道にて秦軍を破り、龐煨 胡虜河にて劇辛を斬る

概要 秦は魏討伐軍を出す。趙にいた信陵君は十年前の趙救援に続き、再び趙・燕・韓・楚の軍を率いて秦軍を撃破し祖国魏を救援。威名は天下に轟く。秦王は魏王と信陵君の離間を謀り信陵君は魏王の疑心を感じ引退。／燕劇辛は趙を攻撃。龐煨に代った龐煨は李牧と共に劇辛軍を迎撃し大勝す。

第百二回 李固舅 権力を争い黄歇を陰殺、樊於期 檄を飛ばし秦王を討たんとす

概要 韓魏楚燕四国会合し秦を攻めるが春申君が集中攻撃されて失敗。楚李園は春申君の子を宿した妹を秦王に献上し嫡子誕生。李園は春申君を口封じの殺殺す。／秦は樊於期が成蟜に秦王政は呂不韋の子だと説き討伐軍を起すが失敗し燕へ逃亡。

第百四回 甘羅 年若くして高位をとり、嫪毐 宦官を装い秦王を乱す

概要 秦・燕を調略し太子丹を質に取る。甘羅の孫甘羅は趙に使者として派遣され五城を割譲させて士・歳で上卿となる。／呂不韋は太后との私通発覚を恐れ太后に嫪毐を推薦。嫪毐は権勢を誇り、謀反を起して誅殺される。王は呂不韋を罷免し生母太后を幽閉する。

第百五回 茅焦 衣を脱ぎ煮釜の前で秦王を諫め、李牧 鉄壁の陣で桓齮を撃退

概要 諫言禁止令に反し死刑覚悟の茅焦の忠諫に秦王政は大悟し茅焦を上卿とする。不韋は結局自裁。秦王は韓非子の登用を考えたが李斯の中傷で自殺に追はれる。秦王は遂に統一に動き尉繚は各国の実力者の買収を提案。

第百六回 王敖 離間の策で李牧を殺し、田光 自刎して荊軻を推薦

概要 趙相国郭開は秦に買収され李牧を罷免し殺す。秦軍は代わった趙葱を簡単に打ち破り邯鄲は落城。／公子嘉が代に拠るが趙は事実上滅亡。／燕の太子丹は秦の人質から脱出。秦王を直接倒す事を企て、荊軻を得て秦王暗殺計画を説明し協力を求める。

第百七回 荊軻 地図を献して秦庭を騒がし、王翦 兵法を論じ李信に代わる

概要 樊於期は荊軻の秦王暗殺計画を聞き自らの首を預けた。秦王は荊軻が持参した於期の首を見信用し、割譲地の説明を促した。荊軻は地図に捲込んでいた首を取り出し秦王を刺したが僅かに届かず失敗。秦王は燕の首都を落し遼東に追ひやり、引き続き魏・楚を滅ぼす。

第百八回(最終回) 秦王 六国を統一し、始皇帝と号し郡県制を敷く

概要 秦は遼東の燕および代の趙を討ち、更に斉に兵を向け、遂に燕・趙・斉も滅亡。六国は併合され八百年ぶりに天下は統一されて、秦王政は始皇帝を名乗る。

巻末資料(下巻巻末)

索引・故事成語 ことわざ

主要人名略伝

時刻と方位 四季 十支 五行 四神

度量衡換算表

年表

春秋形勢図(上巻巻末)

戦国形勢図